

ことばの獲得初期における音楽的表現：身体表現の発達

著者	小野 明美
雑誌名	東京家政大学研究紀要 1 人文社会科学
巻	42
ページ	73-81
発行年	2002
出版者	東京家政大学
URL	http://id.nii.ac.jp/1653/00009097/

ことばの獲得初期における音楽的表現

—身体表現の発達—

小野 明美

(平成 13 年 10 月 4 日受理)

Musical Expression at the Beginning of Infant Language Acquisition

—Development of Physical Expression—

Akemi ONO

(Received on October 4, 2001)

キーワード：乳幼児，身体表現，呼応する，共感，スイングスタイル

Key words：infant, Physical expression, Spontaneous reaction, empathy, swing style

1. はじめに

生後間もない新生児が，顔の表情や口の開閉などの動きを模倣することができることや，特に目に視線を向ける傾向があることが明らかになっている。

保育場面で，ことばをもたない子ども達同士のコミュニケーションの様子を見ていると，母と子のリズムと同調性を持ったやりとり（エンタテインメント）¹⁾のように，他の子の様子を真剣に見つめ，五官を通して敏感に感じ取り，模倣し，体験を通したこまやかな相互交渉を繰り返すなかで生まれている。

2. 研究の目的

本研究では保育場面における，乳児のことばが生まれる以前の身体表現（前言語的コミュニケーション）²⁾や他児とのかかわりの中に見られる，うたが生まれる以前の音楽的表現（身体表現）の発達をさぐり，遊び場面や生活場面の中で見られた音楽的表現に着目して検討する。

3. 研究の方法

- 1) 期間：2000年4月～2001年8月
- 2) 対象：東京家政大学ナースリールーム（産休明けか

ら3歳未満児の保育室）に在籍する0-1歳児5名（表1）
3) 方法：日々の保育場面で見られた子どもの姿を丁寧に記録した個人記録，連絡帳，観察メモ，VTR録画より，身体表現の発達に関する記録を抽出し検討した。

*本論の0歳児3名1歳児2名の混合クラスでのエピソードである。

*文中①～⑩（事例）表4参照

対象児	生年月日	入室年齢	家族構成 (2000 12月)	歩行開始
K児(男)	1998年11月6日	1歳5ヶ月	父，母	1歳3ヶ月
M児(男)	1999年1月25日	1歳2ヶ月	父，母，兄 (6歳)(3歳)	1歳2ヶ月
T児(男)	1999年7月21日	8ヶ月	父，母	1歳3ヶ月
Y児(男)	1999年12月25日	3ヶ月29日	父，母	1歳
I児(男)	2000年2月10日	3ヶ月20日	父，母	11ヶ月

表1 対象児

4. 前言語的コミュニケーション

4-1 声の模倣

Y児は（5ヶ月）保育者が子守歌を歌うと「アグー」と一緒に声を出す。T児を見て大きな声で笑う。保育者に対するより声大きい①。

I児は（5ヶ月）特にハミングは心地よいのか保育者が歌うと「クークーアグー」と答える。口をブーブー鳴らすのを覚え泡だらけにして笑って楽しんでいる②。

①②の事例より Y 児, I 児が共に 5 ヶ月から親しい人に対して、積極的な笑いかけや喃語を発声することが急に増えてくる。6 ヶ月になると自分自身の声に気付いて、唇をならしたり大きな声で叫んだり、声の調整をしながらか喃語を発声することを楽しんでいる様子が 2 人の姿からうかがわれる。

また、Y 児が身体を活発に動かしていると I 児の動きも活発になり、Y 児が欠席の日には穏やかな動きになるなど、喃語の模倣ばかりでなく、身体の動きも 2 人のあいだで相互に影響しあっている様子が見られた。

乳児の発声と早期の歌の輪郭について、D. J. ハーグリーブスは、「乳児は、音高を発声し、変化させ模倣すること、また、旋律的輪郭の変化を見つけることが出来るのである。」³⁾と結論づけているが、I 児(6 ヶ月)は、Y 児が「ウーアー」とうなると、驚くほどよく似た声を出し呼び掛け合っている③。9 ヶ月になると声の模倣がさらに上達して、T 児の泣き声や Y 児とそっくりの声を出し山びこのように応答するようになる④。

Y 児も 9 ヶ月の時に I 児が入眠前に「ア〜〜」と声を出すと、同調のトーンで声を出している⑤。

2 人が模倣して出す声が音質まで似ている。乳児の持つ聴力や模倣力の素晴らしさを再認識した。

4-2 呼応

T 児(8 ヶ月)さかんに「バアー！」と顔を傾けて笑いかけ相手が自分に気付いてくれるまで続ける⑥。

Y 児(7 ヶ月)K 児がそばに来ると笑って見ているが、遠くに行くと「ギャー！」と声を出して呼びかける⑦。

⑥⑦の事例から 7〜8 ヶ月頃になると笑いや喃語の呼びかけが相手に対して、要求やメッセージの意味あいを含んだ、コミュニケーションの手段になってくる様子が伺える。

T 児(1 歳 1 ヶ月)が Y 児(7 ヶ月)の所に這って行き笑いかけて T 児が這うと、Y 児が T 児の気持ちに応え後ろについて行き、2 人の中で這い這いのやりとり遊びが成立し、何度も繰り返して楽しんでいる⑧。T 児が『ついておいで』と誘うように笑いかける笑顔のサインを瞬間的にくみ取り理解しあっているが、7 ヶ月の乳児が相手の気持ちを理解する共感性に驚かされた事例である。

また、T 児(1 歳 3 ヶ月)が M 児と一緒に絵本を見ながら、M 児が「〜ね〜」と尋ねると「ウンウン」とうなずき返している⑨。この事例からも、ことばでのコミュニケーション関係が成立していない 2 人が、お互いの気

持ちをくみ取り絵本を見て、やりとりを楽しんでいる。

子ども達は仲間との親密なかかわりや、体験を通して表面に出ないものを見つめるちから、共感性を育てるようだ。

5. 音楽的表現の発達

5-1 音を出す

Y 児(6 ヶ月)リズムカルにベットの柵、床(保)の身体等を足でキックして楽しむ。「アウアウ」と声を出しクサリを床にぶつけ遊ぶ⑩。I 児(6 ヶ月)床やじゅうたんを叩いたりめくったりしながら「アーンブーアーンブーキャー」と驚くほど大きな声を出して遊ぶ⑪。

身体機能の高まりとともに、手足の動きが活発になり揺らす、引っ張る、叩く、蹴るなどの動作によって、音が出ることを発見し、音を出して遊ぶようになり、事例⑩⑪のように、6 ヶ月頃より自ら音を出し、いろいろな音を聞き、音色の違いに気付くようになる。

Y 児は紙を床にこすりつけて音を出してみたり、ベットの柵の 1 本が回すと「ギーギー」音がするのに気付き音を出して遊んでいる。ねじった時に出る音に気付いているが、今まで乳児室に生活した多くの子ども達が気付いてきたことから、乳児の音に対する好奇心や、観察力に驚かされる。

移動行動がスムーズになり、つかまり立ちや、伝い歩きが可能になると、T 児(11 ヶ月)机の下に入って板壁をドンドン叩き音が響くのを楽しむ⑫。

Y 児(11 ヶ月)金物のスチームカバーや、机の下のベニヤ板をドンドンたたいて音を出す⑬。

I 児(10 ヶ月)音の出るおもちゃを盛んに鳴らしたり、自ら手で色々なところをドンドン叩いて音を出す⑭。

3 名の事例から 10〜11 ヶ月頃になると、探索活動が活発になり、より多くの音との出会いが可能になり、音に対する興味からいろいろな場所にある「音」を発見し、様々な方法で音を出すようになる。

自分の気に入った音を見つけ、繰り返しだして遊びつつ、他の子が楽しんで音を出している姿を模倣することによって、音への興味がますます広がっていくようである。

5-2 スイングスタイル

音楽にあわせて、スイングしている様子を見ると、リズムの乗り方に様々なスタイルが見られ興味深い。

I 児は、8 ヶ月頃より、両足を屈伸させて跳ねるようになり、乳母車やベットの中で、リズムカルにピョンピョ

ン跳ねることを盛んに繰り返すようになる。

跳ねることを楽しみ、自らリズムを刻んではいたが、歌や音楽を感じてリズムに乗りスイングすることはなかった。

1歳をすぎて急に歌や音楽に気付き、自ら音楽を感じてリズムを刻むようになり、音楽が聞こえると直ぐに立ち止まって腰をかがめ膝を上下に屈伸させスイングするようになった。1歳2ヶ月頃になると、左右の横揺れが見られるようになり、リズムカルにスイングすることを楽しみ、嬉しさを表現するときにも同じスイングスタイルをするようになった。

Y児は、8ヶ月頃より、四つ這でリズムカルに前後に屈伸し楽しむ姿が頻繁に見られ、座位ではT児と同様に、リズムに乗って前後に上体を大きく揺らし、前に飛び出しそうなほど跳ねるスタイルであった。

立位(1歳2ヶ月)になると頭と肩をゆったりとしたリズムで左右に揺らすようになる。

歩行が安定し立位姿勢が安定すると、スイングが大きくなり膝の屈伸や、足踏み、左右の足に交互に体重をかけるスイングが見られるようになる。

T児は入室時(8ヶ月)より座位で、歌や音楽がかかるとすぐにリズムにのり首を左右に振り、手をたたいたりしながらリズムカルに身体を大きく揺らしたスイングをする。弾みがついて、足が跳ね上がり倒れそうになるほどである。

1歳4ヶ月の頃から立った姿勢で顎を前に突き出して頭を振り、同時に全身を上下に短いテンポでリズムカルに揺らすスタイルになる。リズムの乗りがとても良くリズムカルなスイングを楽しんでいるが、アクションは小さく、屈伸したり跳ねたりする姿はあまり見られない。

M児は、1歳5ヶ月の頃から、音楽や歌が聞こえてくると、首をくるくると回転させてリズムをとるようになる。M児のように首を回転させリズムをとるスイングスタイルを見たのははじめてであった。

2ヶ月後(1歳7ヶ月)左右に首を振るスイングに変化し、足を踏み換えてリズムをとったり、ばらつきながらもピョンピョン跳ねながら踊るようになる。

K児は入園した時から(1歳5ヶ月)右手を突き上げ足踏みをし、頭を振り全身をダイナミックに揺らしてリズムカルに動かすスイングスタイルをしている。

(入園した時からリズムカルに踊るのを好み、TVの幼児向け番組の歌を保育者が歌うと直ぐに踊り出し、繰

り返しリクエストして楽しんでいる。)

5名とも違ったスイングスタイルが観察されたが、四つ這いや座位、立位など姿勢の違いや、バランス感覚の発達による個人差、子ども達ひとりひとりが持っているリズム感や、快いと感じるテンポなど様々な要因によりスイングスタイルが変化していることが、明らかになった。

一人ひとり持っているテンポに違いがあるように、音の好みにも違いがあり、個々に感じる心地よい音色があるようだ。

I児は泣き声がとても大きく、発声する声も「ギャーガー」濁音が多く、6ヶ月の時に、ベットにつり玩具をつるしておくでガラガラ激しく振ったり蹴ったりして驚くほどの音の洪水の中、平気で遊んでいる。

また、オモチャを扱う時も箱の中をガラガラと激しい音を立ててかき回したり、棚のオモチャをバラバラと音を立てて落としたりするなど、I児の周囲は大きな音で満ちている。仲間とオモチャのやりとりの時も、大声で威嚇するような声を出すことが多い。

Y児は音に対して繊細で、I児のように激しい音を立てて遊ぶことは少なく、発声を楽しんでいる時期に大きな声を出したり、好きなチェーンを床にぶつけて音を出す遊びの時には激しい音も立てたが、6ヶ月の時に紙パックのストローの音や排水口の水音など聞き慣れない音に敏感でびくびくしていた。5ヶ月の時にベットにオルゴール人形を下げておくと、紐を引っ張って鳴り続けるほどであったが、1歳を過ぎてもオルゴールの音色を好み、園に来るとすべてのオルゴールをかけて聴くことが毎朝の日課となった。月齢の差があるものの、I児はオルゴールを、聴くことよりも上で回転する人形や、ネジなどに興味を示しじっと聴いていることはなかった。

2人の様子からも明らかであるが、快いと感じる音や、テンポ、リズムには個人差があり、現れ方も様々である。

また、スイングは、音楽を聴いてリズムに乗った時に見られるだけでなく、好きな遊びを見つけて遊び込んでいる時や、心から嬉しいと感じた時にも、スイング(ハミング)をする姿が数多く観察された。

嬉しい時や楽しい時に、躍り出したくなるという表現があるが、子ども達は、嬉しい時にも飛び跳ねて心から沸き上がる楽しさを表現している。

保育場面で音楽に乗り、あるいは自ら音楽を感じて、スイングしたりハミングしたり、声を出したりしている

子ども達の表情は生き生きとしていて笑顔にあふれている。リズムに乗り身体を動かして表現することは、子ども達の生活に欠かせないものであると言えよう。

6. 他児とのかかわりのなかで見られた身体表現

6-1 揺らす

M児：1歳7ヶ月

午前中、園庭でK児と箱形ブランコに乗り、K児が「ブーアブーア」と唱え、保育者の歌にあわせながらM児も一緒に揺れを楽しんでいた。昼食のデザートに葡萄が出ると葡萄の房を持って振り、揺れる様子を見ながら「ブーアブーア」と唱える⑮。

事例から、1歳7ヶ月のM児が葡萄を揺らし「ブーアブーア」と表現しているが、K児も1歳10ヶ月の時に、ゾウの引き車をぶら下げて紐を揺らしながら「ブーアブーアブーア」とリズムカルにうたっている⑯。

Y児は1歳2ヶ月の時にブランコを揺らしてもらい「ブーアブーア」揺れを楽しんでいる⑰。

自分で経験したこと、つまり身体に感じたブランコの、心地よい揺れなどが貯えられて、その時のイメージを葡萄を揺らしたり、ゾウの引き車を揺らすことで再現している。

I児(1歳3ヶ月)もY児や他の子と一緒に、ブランコに自分から乗るが、揺れるととても緊張し直ぐに降りてしまう。I児は腹筋力や背筋力が強く、8ヶ月の頃から盛んに両足を屈伸させて跳ねるようになり、1歳1ヶ月で小走り始めるほどであった。とても活発でバランス感覚も良いように思えたが、1歳4ヶ月になってもブランコの揺れにはまだ馴染めないようで、乗らずに揺らすことが多く⑱、1歳6ヶ月頃よりブランコに乗ることが多くなるものの、他の子と相乗りが楽しくて乗っているようであった。

I児の場合はバランス感覚がとても発達しているために、ブランコの揺れに敏感に反応し緊張するのか、精神的な面からなのかとても興味深い結果である。次に述べるクルクルまわる事例においても、他の4名より3ヶ月遅れて出現しているが、何らかの関連があるのか今後も観察を続けていきたい。

母親は、赤ちゃんが泣くと思わず抱いて揺らしながら声をかける。しっかりと抱かれることによる安心感と共に、母親の胎内に聞いていた心拍や声を聞き、心地よい揺れに安心して泣きやむ体験に始まり、身体を動かす始

めた乳児は足で蹴ったり、手を振ったり、身体を弓なりに反らせて弾ませるなど、常にリズムカルな動作、揺れを伴っている。

揺れることは、生まれた時(胎児期)から様々なかたちで体験し身についた心地よいリズムなのだろう。

6-2 回転する

Y児：9ヶ月(腹這いで)

K児が好きな「たこ焼きマンボ」の曲を初めて部屋でかけると、普段に増して張り切ってダイナミックに右手を突き上げ足を踏みならして、踊りながら叫んでいるK児の姿を真剣な表情で見て、Y児も一緒になってケラケラ笑って喜び、膝立ちで左右に身体をスイングさせたり上下に弾みをつけながら楽しんでいたら、急に腹這いの姿勢になり腹部を床につけその場で風車のように5〜6周連続して周り、目をパチパチさせて喜んだ⑲。

Y児がこれほど歓喜し、興奮した姿を見るのは初めてで驚いたが、K児が踊る姿に誘発されて、Y児にできる最高の表現方法で仲間と共感している。

T児が1歳1ヶ月の時に、K児とM児が引き車を引っ張り「ガーゴーン」など言いながら、T児の周りをクルクル回って遊んでいるのを見て、まだ歩けないT児が紐を引っ張りながら座位のまま回転するという方法で遊びを共有している⑳。

座位で引き車を引きながら回転すのを見たのは初めてである。その後もY児、T児共に興奮するほど嬉しい時や他の人を笑わせたり、アピールする時などにたびたび回転動作をしている。

立った姿勢でクルクル回る姿が、K児、M児、T児、Y児の4名が歩行開始3ヶ月後に、I児は6ヶ月後に(跳ねながら回る)観察された。対象児5名中4名が歩行開始3ヶ月後に、その場でまわる姿が観察された。5名の観察結果から判断するのは危険だが、発達の目安となることが推測される。今後も事例を増やし観察を続けていきたい。

昨年も声を出しながらクルクル駆けまわるシーンが非常に多く観察されたが、歩行できない子ども達までが、腹這いや座位でスピードを出してクルクルまわり楽しんでいる。回転することが面白い体験となり(目が回ってよろよろするなど)心地よさを継続させ、快の連続によって楽しさが増強されるのだろう。

感覚統合の研究によると、回転の感覚は脳の前庭系の働きが関与し特に姿勢とバランス、筋の緊張、重力に対

する安定感の形成などに関連があると言われている⁴⁾

日々の保育の中で子ども達を見ていると様々な姿勢で回転することを、みずから体験的に学びとっているようだ。

遊びの中で様々な揺れや回転を、友だちと刺激しあい楽しみながらくり返すことによって、安定した姿勢やバランス感覚を身につけていくと考えられる。

揺れや回転について、文献によると、発達の遅れた子どもに対して、姿勢やバランス運動機能を育て、感覚統合の力を高めるための、アプローチとして、揺れや回転についての訓練法を取り上げた実践は多数あったが、一般の子どもに対しての研究や、文献は見あたらなかった。

太古の人類が、火を焚き心拍に似たリズムに乗って身体を揺らしてうたい、踊りながらくるくる回っていたことを想像すると、揺れることやまわることは、人類の祖先から私たちに受け継がれたものなのかもしれない。

今後も子ども達の揺れや回転について視点を絞って、詳しく観察検討していきたい。

7. おわりに

子ども達は、自ら声を出し、声で遊び身体で表現し、じっくりと見て、模倣しながら身体の動きと一緒に相手の『ことば』を感じとっている。

そして、仲間と呼応し、触れあい様々な体験を通して、仲間との関係を深めている。

0~1歳児の混合クラスで、1歳以上年齢差のある子ども達にとって、コミュニケーションのほとんどが、五感や身振りによる身体表現であるが、当時11ヶ月のY児がM児1歳10ヶ月が泣き込んでいる姿を見て這って行き、頭をとんとんして慰めている。

生活や遊びを共有し仲間とかかわり、体験を通して生活共感しあう関係の中で、ことばでは十分に説明しきれない相手の心の内まで全身で読みとっている。

表面に出ないものを見つめること、共感することこそ人と共に生きることの基本であろう。

私たち保育者も共感する力を磨き、子ども達からの様々な発信や表現を読みとる力を身につけていくことが大切であろう。

表2 うたの始まり及びそれ以前の身体表現

(保)保育者

月齢	対象児5名の身体及び音楽的表現
(5) I児	②特にハミングは心地よいのか(保)が歌うと「クークーアゲー」答える。 口をブーブー鳴らすのを覚え泡だらけにして笑って楽しんでいる。
(6)	①床やじゅーたんを叫びたりめくったりしながら「アーンブーアーンブーキャー」と驚くほど大きな声を出して遊ぶ。 ③Y児が「ウーアー」と、うなると似た声で呼びかけ合っている。
(8)	両手を組んで弾みをつけて振ったり、両手を上げてバイバイしたりして遊ぶ。 おもちゃ箱を押して這ったり、両足をピョンピョン屈伸させて跳ねたりする。 * M児やY児がこっつんこなど挨拶にくると、「ギャオー」と答える。
(9)	* 初めて自分からT児や、Y児に抱きついて挨拶しようとする。全体重をかけるので共倒れ状態になる。* K児と絵本を取り合い「ガーガー」と主張する。 本棚の本を空になるまで笑いながら出しハミングしたりスイングしたりする。 ④T児の泣き声やY児とそっくりの声を出し山びこのように応答する。 ● 乳母車で散歩する、(保)が歌うとリズムカルにジャンプして他児と楽しみ、「イナイナイバー」をし合ったりする。
(10)	④音の出るおもちゃを盛んに鳴らしたり自ら手で色々なところをドンドン叩いて音を出す。 「いないいないばあ」の本を(保)が読むと開閉にあわせ「バアー」と真似る。
(11)	(歩行開始) つたい歩きはあまりせず普段は高四つ這いで移動し、そのまま立ち上って歩き出す。「ブーブー、デューデュー」舌を鳴らす。 * 「ダメ！」とK児に言われると、「ギャー！」と言いつ返す。
(12)	好奇心旺盛で目に付いた物や友だちの使っている物を次々に取りに行き手にすると満足して探索を続ける。胸を反らして突進するように歩き回る。

- (13) ● CD (童謡) をかけたり (保) が歌ったりすると膝を屈伸させスイングする。
I 児 ●イントロが始まるとすぐにスイングが出る。(リズムカルでテンポが速い)
2～3センチの段差を気にせず降りていく。移動は小走りが多くなる。
●他の子の模倣からスイングしていたが、自ら音楽を感じてリズムを刻むようになる。歌やリズムをととても楽しむようになる。
完全な両足跳びはまだ出来ないが、時々バタバタした足取りで、ジャンプする。
- (14) ●池で「メダカの学校」を2歳児と一緒に歌っていると、上下に屈伸してリズムをとり「ア～ア～」と声を出す。
- (15) ブランコに自分から乗るが、揺れるととても緊張しすぐに降りる。
- (16) つま先歩き、バック歩きを良くするようになる。
⑩ブランコの揺れには、まだ馴染めないようで、乗らずに揺らすことが多い。
●CDにあわせて両手を広げ左右にスイングしてリズムを楽しむ。
保育者が歌うと、一緒に歌うように「ア～～～」とこえをだす。
- (17) 遊んでいる時に、その場でくるくる回転するようになる。
ミニカーを片手に持ち、つま先立ちで、跳ねながらくるくると回る。
(嬉しい時や楽しい時、音楽を感じた時に、笑いながら跳ね、クルクルまわる。)
-
- (4) 優しい声が良いようになる。発声しつつケラケラ笑う。
- (5) ① (保) が子守歌を歌うと「アゲ～」と一緒に声を出す。T児を見てけらけら
Y児 大きな声で笑う (保) に対するより声が大きい。
- (6) T児が泣くと「ア～」と一緒に声を出す。声が出ることに気づいて楽しんでいるように見える。
紙パックのストローの音、排水口の水音など耳慣れない音にびくびくする。
- (7) ⑩ リズムカルにベットの柵、床 (保) の身体等を足でキックして楽しむ。
「ブーブー」唇を鳴らす。「アウアウ」と声を出しクサリを床にぶつけ遊ぶ。
⑦ K男がそばに来るとニコニコ笑ってみているが、遠くに行くと「ギャー！」と声を出して呼びかける。
- (8) ⑧ T児が這っていきY児に笑いかけると、笑い返して這って後ろについて行く
2人の間で這い這いのやりとり遊びが成立し何度も繰り返して楽しんでいる。
●四つ這でリズムカルに前後に屈伸し楽しむ姿が頻繁に見られる。
- (9) 本棚の本を膝立ちでほとんどからになるまで出しながら、フンフン鼻歌のようにハミングし左右に身体を揺らしケラケラ笑っている。
⑨ CD「たこ焼きマンボ」をかける。ニコリ笑って喜び、膝立ちで左右に身体をスイングしてK児の躍る姿を見ていたが、腹這いになり腹部を床に着けて、その場でクルクル風車のように5～6周連続して周り、目をパチパチさせ喜んでいる。⑤ I児が入眠前に「ア～～～」と声を出すと同調のトーンで声を出す。
- (10) スタンドの光を見て喜び、腹部を中心にしてクルクル2～3回続けて回っては (保) を振り返るので (保) が笑い返すと、何度も繰り返してケラケラ笑う。
●初めて乳母車につかまり立ちして散歩する、バイバイしたり (保) の歌にあわせてリズムカルに屈伸して楽しむ。* 仲間と目が合うと大喜びして出迎え声を上げて笑い、膝立ちになって両手を上げ、のけぞって喜ぶ。
I 児と2人で入り口の柵の所につかまり立ちし、お互いの顔を見て屈伸しながら (I 児) 「ギャー」 (Y 児) 「アギャー、ニャンニヤイ～」と遊ぶ。
- (11) * M児が泣き臥していると、(保) を振り返り困った顔をしていたが這っていきM児の頭をトントンたたいて慰めた。
12/12 も同じメンバーで散歩する乳母車の中で T 児の「ポッポッポー」の歌に

Y児	あわせてスイングし口をパクパクして声を出す気配がある。繰り返すうちに「ポッポッ」に近い声が出る。
(12)	<p>⑬金物のスチームカバーや、机の下のベニヤ板をドンドンたたいて音を出す。 （歩行開始）普段はつたい歩きで移動することが多い。</p> <p>●（保）が歌うと正座スタイルで頭や上体を左右にスイングしたり、膝立ちでピョンピョン跳ねてリズムをとる。音に敏感ですぐにスイングを始める。</p> <p>● K児が「たこ焼き～」と歌いダイナミックに踊るのを見て、膝立ちで両手を上げてバンザイしながら大きく跳ね、前のめりになりながらも繰り返し楽しむ。風に揺れる木の葉や空をジーと見つめている。</p> <p>良く歩くようになる。危ないからと止められると大声で泣き怒る。</p>
(13)	<p>誰も乗っていないブランコの所に行き揺らす。（揺らしながら様子を見る）窓から雨を見て「雨ね」と言う。「ぼっぼっ」「あめ」と真似る。</p> <p>リングを口にあてて「ア～ア、ア～ア、アワワワ～」と声を出す。</p>
(14)	<p>●立って頭や肩をゆったりしたリズムで左右に揺らすスイングスタイルになる。</p> <p>⑰自分でブランコに乗って、揺らしてもらい「ブーアンブーアン」と唱える。</p> <p>（保）が歌ったり楽器を鳴らしたりすると、一緒にあるいは一人で「ア～ア～オ～」など優しい声を出しながら身体を揺らし歌うように声を出している。</p> <p>スリッパを履いて歩いたり、5ミリほどの段差を降りることを繰り返す。</p>
(15)	<p>一定の場所でクルクル回り目が回ってよろよろするのを楽しんでいる。</p>
T児	<p>* 2歳児が来て目の高さになり、おでこをコッツンコすると「キヤー！」と歓声を上げて喜び、自分からおでこを近づけていく。</p> <p>⑯他の子に対し、さかんに「バアー！」と顔を傾けて笑いかける。相手が自分に気付いてくれるまで続ける。●音楽が聞こえてると直ぐにスイングが始まる。</p>
(9)	<p>「ブーブー」と舌鳴らし、自分の太股を叩いて喜ぶ。</p> <p>●（保）が「ガタンゴトン、ガタンゴトン・・・」と言うと、リズムカルに尻を弾ませて楽しんでいる。</p> <p>箱を前後に引っ張りながら「フンフンフン・・・」とハミングする。</p>
(10)	<p>* K男やM男の積極的な愛情表現コッツンコや抱っこを受け止める。</p> <p>●アニメの歌が聞こえると身体を前後に揺らしてリズムを取る。</p>
(11)	<p>⑱机の下に入って板壁をドンドン叩き音が響くのを楽しむ。</p> <p>「アッアッアッ・・・」（ラミの音程）鼻歌のような声を出す。</p> <p>這い這いをしながら、「アーファンダーアパー～」と歌い続けている。</p> <p>* 自分からK男やM男の所にコッツンコの挨拶に行く。</p> <p>床の腹をつけて、泳ぐように動きながら「フーン～～」と鼻歌を歌う。</p>
(12)	<p>* Y児やI児に対し「ダアーダアー」とあやしたり「ハイ、アイ」とおもちゃを渡したりする。</p>
(13)	<p>⑳K児やM児が、引き玩具を引っ張って歩いていると「タータータータータ！」と言いながら自分も仲間に入ろうとしてエンコのまま回転し引っ張っている。</p> <p>ハミングとも歌とも聞こえるようなうたを口ずさんでは一人で身体をスイングさせている。ことばの模倣が上達して、同じ雰囲気でも反復するようになる。</p> <p>* Y児の所に這っていき、『ついておいで』と誘うように笑いかけてT児が這うと、Y児がT児の気持ちにこたえ後につづき2人で這い這いを楽しむ。（M男が使っていた長くしたBブロックを笑いながら取って逃げる。）</p>
(14)	<p>●（保）が両手を取って歌にあわせて、スイングすると足を交互に高く上げてリズムに合わせて楽しんでいる。</p>

T児	<p>(保)の背中につかまって歩き、その後手が離れて、2～3歩歩く。</p> <p>●歌にあわせてスイングしたりラッパを吹いたり、拍手をしたり、腰を上下させたりしてリズムを楽しむ。</p>
(15)	<p>鳩を見つけて、「アッポッポー」と言う。</p>
	<p>11/14.乳母車にY児、I児と3にんで乗り散歩に行き鳩を見ながら(保)が「ポッポッポー」と歌うと「ポッポッポー」(4回)と音程もほとんど同じく真似て歌う。(保)が午睡の時に「ねーんねんー」と歌うと「ネーンネン」と真似て歌う。</p>
	<p>11/15.昨日と同じコースを散歩すると、鳩を見て「ポッポッポー」と歌い出す。</p>
	<p>⑨M児と一緒に絵本を見ていて、M児が「～ね～」と尋ねると「ウンウン」とうなずき返す。</p>
(16)	<p>歩きながらその場でクルクルまわる。</p>
	<p>●顎を突き出し上半身を前後に揺らし曲にあわせてテンポでスイングする。歌が気に入らないと「ウンウン」と首を振り、気に入るまでリクエストする。</p>
(16)	<p>(保)が歌うとスイングを始め「ア～ア～」と歌うように声を合わせ唱える。</p>
M児	<p>* Y児を「バー」とあやしたり、オモチャをT児の手に乗せて渡したりする。</p>
(17)	<p>●「イツアスモールワールド」「ミッキーマウス」のテーマソングを歌うと首の体操のようにぐるぐる首を回しリズムを取っている。(独自のスイングスタイル)</p>
	<p>その場で1～2回クルクルまわる。つま先立ちで歩く。スリッパを履いて歩く。</p>
(19)	<p>一人でしゃべったりハミングして寝付かず、(保)がトントンすると、「ヤー」と言</p>
	<p>ってしゃべり続けている。(首振りスイングスタイルが左右のスイングになる。)</p>
	<p>⑮葡萄の房を持ち上げて振り揺れる様子を見ながら「ブ～アン、ブ～アン」という。音楽に合わせて1歩1歩足を上げて歩く。</p>
(20)	<p>名前を呼ぶと「ハーイ」返事をする。「イヤナイ」「ヤダ！」等のことばを良く使う。</p>
	<p>乳母車を押しながら「よいしょっ！よいしょっ！・・・」とリズムカルに唱える。はさみを使う。靴下や、ジャンパーを自分で脱ぐようになる。</p>
	<p>鼻歌を歌ったりリズムカルな声を出して遊び込んでいることが多い。</p>
	<p>10/18. 引き車で遊んでいたので、(保)が「さんぼ」を歌っていると、リズムカルに身体を揺らしながら「アウコ～アウコ～・・・」と繰り返し歌い出す。</p>
(17)	<p>歌うように声を出しながら、身体をスイングさせている。</p>
(18)	<p>その場でクルクル回るが2週目で足がもつれてやめる。つま先で歩く。</p>
K児	<p>* マットの上で腹這いをしているY児に顔を近づけ「バー」とあやす。</p>
(19)	<p>● 2歳児の部屋から太鼓や盆踊りの音楽が聞こえると太鼓を叩きリズムに乗</p>
	<p>って、嬉しそうに踊り出す。* M児の車を使おうとしたT児をM児が怒って抗議</p>
	<p>するのを見ていたK児がT児の顔をのぞき込み説得するように話しかける。</p>
(21)	<p>ブランコに乗って「ビビーポー、ビービービーポー、ビービーポー(5回)「マン</p>
	<p>ボ、マンボ」「ガンガン、ガン、ガン」「ビビビビビ」とリズムカルなこと</p>
	<p>ばを繰り返し揺れながら楽しんでいる。9/21.「たこ焼きマンボ」の曲が好き</p>
	<p>で良く躍っていると、保護者に話していると、部屋にいたK児が話を聞いて</p>
	<p>いて、「マーボ！マーボ！」と歌いながら躍り出す。</p>
	<p>9/21.(保)がブランコをこぎ始めると「ブーア、ブーア」とリズムカルに唱える。</p>
	<p>● 10/4.部屋で「たこ焼きマンボ」のCDをかけると、右手をリズムカルに突き</p>
	<p>上げて、腰を振ったり、ジャンプしたりして、「マンボッ！マンボッ！」と大</p>
	<p>きな声で歌う。</p>
	<p>⑯ 10/5.ゾウの引き車を、ぶら下げてぶらぶ揺らしながら「ブアブア～ブアブア</p>
	<p>～ブア～・・・」リズムカルに唱える。</p>

●スイングスタイル

*他児とのかかわり

①～⑳本稿事例

謝 辞

本研究にともに取り組み、ご指導いただいた細田淳子先生に深く感謝いたします。

尚、本論は第54回日本保育学会論集（於尚絅女学院短期大学）『ことばの獲得初期における音楽的表現（4）－身体表現の発達－』pp.356-7.2001に加筆したものである。

引用文献

- 1) 倉戸ツギオ「育てはぐくむかわる」生涯発達心理学の視点から発達行動を探る 北大路書房 1997, p.61
- 4) 同掲書1) p.82
- 5) D. J. ハーグリーブス「音楽の発達心理学」田研出版株式会社 1993, p.81
- 4) 坂本龍生・花熊暁「入門 新・感覚統合法の理論と実践」学研 1997, p.77

参考文献

加藤晴久・増森和夫「赤ちゃんは知っている－認知科学のフロンティア」藤原書店 1997, pp.268-269

柿本堯夫「子どもと音楽」(人間の発達Ⅱ)

東大出版会 1999

ローレンB. アダムソン著大藪泰・田中みどり訳「乳児のコミュニケーションの発達」川島書店 1999

佐藤剛「感覚統合Q & A子どもの理解と援助のために」協同医書 1998

正高信男「0歳児がことばを獲得するとき」中央公論社 1993

正高信男「声が言葉に変わるとき」月間言語 No.4 修館書店 1992

正高信男「ことばの誕生論・行動学からみた言語起源」紀伊國屋書店 1991

竹下季子「心とことばの初期発達－霊長類の比較行動発達学」東京大学出版会 1999

小林春美「子どもたちの言語獲得」大修館書店 1998

大久保愛・長沢邦子「保育言葉の実際」[第2版] 建白社 1999

北郁子・西之内多恵・米山千恵「0歳児クラスの保育実践」中央法規出版 1995

Summary

In this project, we have observed five infants to explore how they develop their physical expression as they grow. The result is as follows: At the age of 6 months, infants become interested in sounds, and begin to make sounds by themselves by beating or swinging material which they find in girth. At the age of 7 or 8 months, they try to send a message to other babies by means of laughing and babbling. They enjoy humming or swinging not only when they listen to music but also when they feel relaxed or happy. They swing material and sometimes move round themselves while they are playing, too. By so doing, they seem to acquire physical balance. It is worth pointing out that style of swinging as well as tempo is different among infants.